

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 27 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520669

研究課題名（和文） 播磨国風土記の現地調査研究を踏まえた古代地域社会像の提示と方法論の構築

研究課題名（英文） The Field Study on the Community in ancient Japan and its Methodology by HARIMANOKUNI-FUDOKI, the olden Topography

研究代表者

坂江 渉（SAKAE WATARU）

神戸大学・大学院人文学研究科・特命准教授

研究者番号：00221995

研究成果の概要（和文）：3 年間の研究を通じて、(1) 播磨国風土記の地名の新しい現地比定、(2) 地域史研究や村落祭祀論をめぐる新たな方法論の構築、(3) 地名起源説話にもとづく王権論と播磨政治史へのアプローチ、(4) 播磨国と他国との交流と交通路の解明、(5) 播磨国をめぐる地域間交流におけるミヤケ立地と交通関係の解明、という 5 つの研究成果を得た。

研究成果の概要（英文）：We achieved the following results through the field study on three years. : 1) Local presumption of name of a place and Restoration of spectacle in HARIMANOKUNI- FUDOKI, 2) The Construction of new methodology on the Community in the Ancient Japan, 3) Approach to a political history about ancient HARIMANOKUNI, 4) The actual Condition Elucidation of Exchange and a Traffic Route between HARIMANOKUNI and IZUMONOKUNI, 5) Actual Condition Analysis of the political Stronghold of an ancient State.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	1,100,000 円	330,000 円	1,430,000 円
2011 年度	700,000 円	210,000 円	910,000 円
2012 年度	900,000 円	270,000 円	1,170,000 円
年度			
年度			
総計	2,700,000 円	810,000 円	3,510,000 円

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：播磨国風土記、神話、村落祭祀、共同体、交通、王権論、

1. 研究開始当初の背景

研究代表者を中心とする研究グループは、2002 年以来、『播磨国風土記』の共同研究をすすめて、2007 年 3 月にはその成果の一端を、『風土記からみる古代の播磨』（神戸新聞総合出版センター）として刊行した。また 2007～2009 年度には、科研費（基盤研究（C））の交付を受け、「播磨国風土記を通してみる古代地域社会の復元的研究」と題する共同研究をおこなった。これを通じて、およそ 5 つ程度の研究成果をあげることができた。だが

その一方で、解決すべき課題があることが見えてきた。『播磨国風土記』には、古代地域社会や共同体解明に資する情報が豊富に内包されているにもかかわらず、今まで歴史学の立場から十分に活かされていないという事実がそれである。

2. 研究の目的

そこで本研究では、これまで地元自治体関係者との協力を得てすすめてきた『播磨国風土記』条文の史料校訂と現地調査研究をおこ

なって基礎的データの集積につとめるとともに、地名説話の中に含まれる断片的な神話・伝承の復元、およびその背景にある儀礼・祭祀や共同体的諸関係の中身の提示とその方法論の構築をめざすこととした。

3. 研究の方法

『播磨国風土記』の地名所載数は、合わせて10郡分（明石・赤穂郡を欠く）、約360件以上に及んでいる。これは完本である『出雲国風土記』の所載数（900件以上）に次いで多い数である。こうした膨大な史料をかかえる『播磨国風土記』のうち、研究グループでは、すでに科学研究や自治体史研究などを通じ、北播地域の賀茂郡、中播地域の神崎郡・飾磨郡、西播地域の揖保郡・宍粟（宍粟）郡などの現地調査研究を試みてきた。本研究ではこれらの実績を踏まえ、そのうちさらに『播磨国風土記』の揖保・宍粟・讃容（佐用）の西播3郡の地域史料を重点的な研究対象とし、現地調査と遺跡分布調査等を踏まえた地名起源説話分析に着手することにした。

なぜなら第1に、これら3郡は山陽道・美作道（出雲往還）・因幡道が通る交通の要衝地に位置し、それに起因すると思われる日本海側各地（出雲・伯耆・因幡・但馬等）からの人や神の移住譚、およびそれらと地元勢力との軋轢・紛争をめぐる神話・伝承（＝天日槍命や葦原志許乎の戦い・神いくさ、荒ぶる神の交通妨害説話）が風土記条文にたくさん見られる地域であるからである（約15例）。

これらの神話や伝承が何を意味するかについて、現地調査と景観分析をともなった研究をすすめるれば、今までなかった交通論や他者の移住論の問題とも関連付けた地域社会像や新たな方法を構築できる可能性がある。

第2に、これは第1点目と密接に関連するが、揖保・宍粟・讃容3郡の風土記条文には、神の食膳・杖刺し・井泉掘削・動物関連の話など、合わせて10件以上の神々による「国占め」の地名説話が集中しているからである。この「国占め」の説話は、かつて王権への服属儀礼論の素材として扱われたことがあった。しかし第1の交通の要衝地での説話であることを重んずれば、地域支配や族長層の土地「領有」の呪術・祭祀に関わる史料としてみることも可能である。関連する現地を実際に歩き、考古学的成果も交えた景観分析をすれば、古代における「国」（クニ）の空間的領域認識、さらには交通論とも結んだ村落論の具体化にもアプローチすることができるという見通しを立てた。

4. 研究成果

(1) 『播磨国風土記』の地名の新しい現地比定

『播磨国風土記』には合わせて360以上の地名が載せられている。このうち前研究で揖保郡を中心とする現地調査をすすめ、そのうち10の条文の史料校訂と注釈をおこなった。本研究ではそれを踏まえ、揖保郡の条文のほか、讃容・宍粟・神前3郡の各条の現地調査も試みた。これにもとづき各地の現地比定をめぐる、従来の通説的理解（日本古典文学大系『風土記』、新編日本古典文学全集『風土記』など）とは異なる新知見を獲得できた。

これについては、それぞれの比定地の現地調査を科研チーム単独ではなく、地元市町の文化財担当職員や地域史研究家の協力のもとに実施できたことが大きい。その成果については、坂江渉『播磨国風土記の現地調査研究を踏まえた古代地域社会像の提示と方法論の構築』（2013年3月31日刊、以下、報告書と略す）の第2部の岸本道昭「揖保郡里領域成立試論」、第3部の「播磨国風土記註論」において公表した。

(2) 地域史研究や村落祭祀論をめぐる新たな方法論の構築

神話学や祭祀史料研究などで説かれているとおり、古代の神話・伝承は、単なる机上の創作物や読み物でない。それらの多くは実践的な儀礼・祭祀との関わりをもち、神聖な場所と時に語られるべきものであった。したがってその中身の解明は、それが実際に語られる場である、当時の地方祭祀のあり方や儀礼の実態分析に接近できうる可能性をもつ。

本研究ではこのような見通しのもと、『播磨国風土記』に10例以上の断片史料のみえる「国占め」神話に分析を加えた。それが村落レベルの族長層による食膳と勸農儀礼などの地域支配の中身と密接に関連している事実を指摘した。このような神話の中に含まれる階層性や階級性の問題を重んじる視点をとることにより、民間の神話断片を古代村落祭祀論や地域史研究に利用する事実を提起することができた。その成果については、坂江渉「『国占め』神話の歴史的前提 -古代の食膳と勸農儀礼-」（『国立歴史民俗博物館研究報告』179集、2013年11月刊予定）に発表する予定である。

(3) 地名起源説話にもとづく王権論と播磨政治史へのアプローチ

研究を通じて、『播磨国風土記』の地名起源説話の中に数多くみえる王族伝承、吉備・葛城・火明命系などの各氏族伝承などが、大化前代の古代播磨の政治構造や、倭王権による地域支配の構造やその変遷を解明する素材となり得ることが明らかになった。このような方法にもとづく研究成果を、研究分担者の古市晃が「倭王権の支配構造とその展開」というテーマで、『日本史研究』606号（2013

年)に公表した。

(4) 播磨国と他国との交流と交通路の解明

播磨国は、律令制下の「山陽道」「美作道」「因幡道」の存在が語るように、交通の要衝地に位置している。それに応じる形で、『播磨国風土記』の地名起源説話の中にも、たくさんの人や神の移住譚、およびそれらと地元勢力との接触や軋轢・紛争を語る伝承や神話が含まれている。本研究では、このうち出雲地域を中心とする地名起源説話の分析を加え、古代地域社会における出雲認識や、播磨国内における「官道」とは異なる交通路の発見と、その一部復元を試みる事ができた。

その成果については、坂江渉「『播磨国風土記』からみた地域間交通と道 -出雲国との関連で-」(『条里制・古代都市研究』27号、2012年)に発表した。

(5) 播磨国をめぐる地域間交流におけるミヤケの立地と交通関係の解明

『播磨国風土記』に記載されるミヤケの実態解明の一環として、他のミヤケ関連史料との関わりで播磨のミヤケを位置づけた。風土記に記される銚磨ミヤケは海洋祭祀の要素と立地条件により港湾施設である点、地名起源伝承より美作道と山陽道の分岐点に立地する陸上交通の機能、周辺諸郡に設置されたミヤケ付属水田の存在などの機能と実態が指摘できる。播磨と美作道、瀬戸内海上交通で結ばれる吉備の児嶋ミヤケについて検討したところ、港湾施設、陸上交通、「吉備五郡」と呼ばれる広域支配の機能を有することなど播磨の銚磨ミヤケと極めて類似していることがわかった。

播磨のミヤケ経営に関与する佐伯直は吉備における吉備海部直と対応する役割を果たしていたこともうかがえる。播磨と吉備のミヤケを比較検討することにより瀬戸内海の海上・沿岸の交通システムの実態がみえてきた。

以上の研究成果を、研究分担者の高橋明裕が、岡山大学で開催された第19回総合学術研究集会特設分科会で「古代吉備の環境と歴史」と題して報告した(2012年9月)。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計11件)

1. 坂江渉「根日女伝承からみる古代の婚姻像 -口承としての歌-」『兵庫神祇』592号、2012年、11-22頁、査読なし
2. 坂江渉「ミナトの自然環境と神祭り」三宅和朗編『環境の日本史2 古代の暮らしと祈り』吉川弘文館、2013年、220-243頁、査読なし
3. 古市晃「倭王権の支配構造とその展開」『日本史研究』606号、2013年、4-28頁、査読あり
4. 坂江渉「『国占め』神話の歴史的前提 -

古代の食膳と勸農儀礼-」『国立歴史民俗博物館研究報告』179集、2013年11月刊行予定、頁数は未定。査読あり。

5. 坂江渉「歴史学研究からみた『播磨国風土記』の可能性」『風土記研究』31号、2012年、1-17頁、査読あり
6. 坂江渉「『播磨国風土記』からみた地域間交通と道 -出雲国との関連で-」『条里制・古代都市研究』27号、2012年、77-92頁、査読あり
7. 坂江渉・古市晃・松下正和・高橋明裕「播磨国風土記の世界をたずねて -『播磨国風土記』神前郡条の研究-」神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター編『ふくさき再発見 -歴史をたずねて-』同刊、2012年、1-38頁、査読なし、<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/81003852.pdf>
8. 坂江渉「『播磨国風土記』からみる出雲・播磨間の交通と出雲認識」『古代出雲の多面的交流の研究』島根県古代文化センター、2011年、17-31頁、査読なし
9. 坂江渉「尼崎の砂州地形と呪術・祭祀 -津波と大阪湾の潮の流れとの関わりで-」『兵庫神祇』589号、2011年、13-20頁、査読なし
10. 坂江渉「美女伝承にみる古代の婚姻像」『歴史読本』856号、2010年、218-223頁、査読なし
11. 古市晃「約半世紀ぶりにみつけた古代石文」『木簡研究』32号、2010年、132-132頁、査読なし

[学会発表](計7件)

1. 古市晃「倭王権の支配構造とその展開」、日本史研究会大会報告、2012年10月7日、京都府京都市
2. 高橋明裕「古代吉備の環境と歴史」、第19回総合学術研究集会特設分科会報告、2012年9月15日、岡山県岡山市
3. 坂江渉「『播磨国風土記』からみた古代の西播磨 -揖保郡を中心に-」、平成23年度国立歴史民俗博物館共同研究発表会、2011年12月23日、兵庫県たつの市
4. 坂江渉「『播磨国風土記』からみた地域間交通と道 -出雲国との関連で-」、第27回条里制・古代都市研究会大会報告、2011年3月6日、奈良県奈良市
5. 坂江渉「文献史料からみた古代の呪術・祭祀 -『播磨国風土記』を中心に-」、日本考古学協会2010年度兵庫大会、2010年10月16日、兵庫県明石市
6. 坂江渉「歴史学からみた『播磨国風土記』の可能性」、風土記研究会第8回研究発表会、2010年9月11日、兵庫県姫路市
7. 坂江渉「神話・伝承からみる地域祭祀の諸相」、続日本紀研究会5月例会、2010

年 5 月 10 日、大阪府大阪市

〔図書〕（計 2 件）

1. 坂江渉編『播磨国風土記の現地調査研究を踏まえた古代地域社会像の提示と方法論の構築』坂江渉、2013 年、全 150 頁
2. 坂江渉編『神戸・阪神間の古代史』神戸新聞総合出版センター、2011 年、全 307 頁

〔その他〕

1. 調査研究の成果を、神戸大学大学院人文学研究科地域連携センターのホームページ
<http://www.lit.kobe-u.ac.jp/~area-c/>
に掲載予定である。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

坂江 渉 (SAKAE WATARU)

神戸大学・大学院人文学研究科・特命准教授

研究者番号：00221995

(2) 研究分担者

古市 晃 (FURUICHI AKIRA)

神戸大学・大学院人文学研究科・准教授

研究者番号：00344375

高橋 明裕 (TAKAHASHI AKIHIRO)

立命館大学・文学部・非常勤講師

研究者番号：90441419